

全学内部質保証委員会検証における意見への対応

部局等：産学官連携本部

<p>評価結果における意見等 (※問題点や改善を要する事項、改善が望まれる事項等)</p>	<p>対応状況</p>
<p>当該本部の目的等は明確に定められているが、第3期から第4期への中 期目標・計画の推移、福大ビジョン 2040の制定など、当該本部を含め本学 を取り巻く状況も大きく変化してい るが、それに対応すべく、当該本部の 具体的な目的等を見直さなくてもよ いのか（基準1-1）</p>	<p>福大ビジョン2040と第4期中期目標・中期計画 に合わせて、当該本部のミッションに社会の概況も 取り入れながら、現在、目的・活動等の見直し、検 討を進めている。本学を取り巻く状況の変化につい ては、社会との対話に基づいて活動内容に常に反映 する形とする一方で、目的については、特に、外部 のステークホルダへのメッセージとして、包括的な 内容とする方針としたい。</p>
<p>現在の構成員によって十分な活動・ 成果・効果の実績をあげては高く 評価されるが、新たに社会的要請と して生じてきているDXやGXに対 応できる体制（人員を含め）を整備す るよう、ご配慮いただきたい（基準2）</p>	<p>DXやGXに対する教育、研究環境の整備を見据 え、産学官連携本部客員教授にQRコードの考案者 である株式会社デンソーの原昌宏氏を採用した。そ の他学外においても企業IT人材養成プログラム を福井労働局、ハローワーク、福井県と連携し、IT 関連のキャリア形成等の支援を実施している。今 後、データ科学・AI教育研究センターやCN推進 本部等の全学での取り組みの拡充に貢献し、外部資 金獲得等を進め、社会からの要請に応えていける体 制の構築を目指す。</p>
<p>当該本部の活動が十分に展開でき るよう、産学官連携本部協力会と緊密 な連携を取り、当該本部の活動を十分 に展開している。しかしながら、最近、 協力会の参加企業数が頭打ちになっ ているが、さらに参加企業を拡大する ことを考えなくてもよいのか（基準2 -1）</p>	<p>産学官連携本部のコーディネーターやURA、教 員が連携をとって企業を訪問し、「お困りごと」等 に関するヒアリングを通してシーズ発掘をアイデア 形成段階から実施し、次のネタを確保するための布 石としている。また、テーマを絞った協力会部会活 動等、質の高い情報共有の機会を創出し、会員同士 の連携促進を試みている。情報発信・共有の利便性 向上のため、ウェブサイトを再構築し、北陸未来共 創フォーラムや、北陸RDXといった活動について の広報もリンクさせ、様々な形での参加価値向上に 努めている。</p> <p>協力会会員企業数については、継続的な対話や各 種相談対応、共同研究やプロジェクト研究の推進支 援、外部資金獲得支援等について、マンパワー含め リソースとのバランスした数に達しているものと 考えられる。会社事情などでの退会数と新規入会数 が年あたり10件程度存在することもあわせて考え ると、全数は変化がないが、拡大については十分に 図られていると判断している。もちろん、さらに企 業数増加のための努力を継続するが、前述の状況を 鑑みると、全学としての研究力強化・環境整備、支 援人材の増員・環境及び体制整備等の措置が必要と</p>

	考える。
従来から産学官連携本部独自の活動により収入増加を図り、予算を獲得していることは高く評価されるが、今後も、一層の外部資金獲得に努めていただきたい（基準6-1）	従来の産学官の枠組みに捉われることなく、コアテクノロジーをベースに、福井県全体、社会全体の変革を捉えたプロジェクトを推進するための、異分野融合、他大学との人材ネットワークづくりを進め、外部資金獲得に向けての、柔軟かつ多様な体制づくりを引き続き強化していく。